



HARIMA

CHEMICALS GROUP

COMPANY GUIDE

ハリマ化成グループ株式会社

www.harima.co.jp



松の化学でこたえていく

ハリマ化成グループは、松から得られるロジン(松やに)、脂肪酸、テレピン油などを使って化学素材をつくる化学メーカーです。

私たちの製品は、印刷インキ用樹脂や、塗料用樹脂、粘接着剤用樹脂、合成ゴム用乳化剤、製紙用薬品、電子機器に使われる接合剤(はんだ)、香料原料などとして幅広い分野で使用されています。

それらは、新聞、本、カタログなどの印刷物、建造物、自動車などに使われる塗料、接着剤、包装用テープなどの粘接着剤、自動車タイヤなどの合成ゴム、ノート、本、段ボールなどの紙製品、コンピュータや携帯電話といった電子機器、かおりをもたらす香粧品など、生活に欠かせない製品に姿を変え、人々の暮らしに役立っています。

そして今、私たちは世界各国に製造拠点をもち、事業を展開。お客様のニーズに、グローバルにこたえています。



ロジン(精製された松やに)

ロジン

松が育む、 尽きることのない資源

ロジンは松科の植物に含まれる松やにを精製して得られる成分です。身近な利用例としては、松やにのネバネバした性質を利用した野球などで使われるロジンバッグや弦楽器の弓に塗るロジンがあります。旧約聖書のノアの方舟の話にも登場するように、松やには紀元前より水漏れ防止剤に使われ、古代ギリシャでは照明や宗教的儀式に用いられるなど、人々の生活にさまざまな形で利用されてきました。現代においても化学工業原料として、樹脂・化成品や製紙用薬品、電子材料など、暮らしの身近な分野で広く活用されています。



パインケミカルとともに

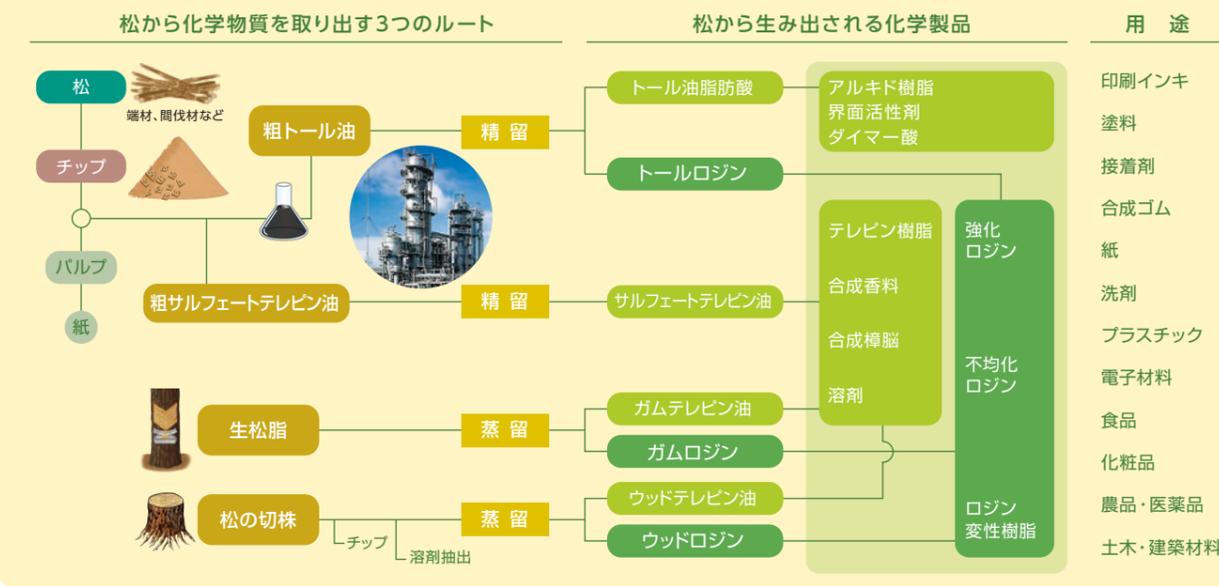
私たちの事業は、「パインケミカル事業」からスタートしました。

パインケミカルとは、松(パイン)から得られるロジン、脂肪酸、テレピン油などの有用な化学物質を扱う「松の化学」のことです。

私たちは自然の恵みである「松」を良きパートナーと考え、

自然とテクノロジーの調和を大切にしながら、「松」から得られる化学物質を最大限に活用したいと考えています。

パインケミカル製品と用途



松は植林することで再生可能な尽きることのない資源

枯渇するおそれがある石油や石炭のような化石資源とはちがひ、松は植林により20~30年のサイクルで再生可能(リニューアブル)な資源です。私たちは、自然が育む松から得られる化学物質を生活に役立つ製品として活かすパインケミカルを起点に、樹脂・化成品をはじめ、製紙用薬品や電子材料などでさまざまな製品を開発しています。

ロジンの種類

ロジンは、採取方法により3種類に分類されます。松の幹から直接採れる生松脂(なまつやに)を蒸留して得られるガムロジン。松材からパルプを製造するときに副生する粗トルール油※を精留することで得られるトルールロジン。松の切り株をチップ状にしたものから溶剤抽出し、蒸留して得られるウッドロジン。

私たちは、世界で最も多く使われているガムロジンと工業的に得られるトルールロジンを原料としてグローバルに事業展開しているメーカーであり、用途や状況によって2種類のロジンを使い分け、高品質な製品を安定して供給し続けています。

※トルール油とはスウェーデン語で「松の油」を意味するTallojaに由来



Pine Chemicals Studio
パインケミカル スタジオ

加古川製造所内にある見学施設「パインケミカルスタジオ」では、パインケミカルの歴史や意義、そして未来について紹介しています。



生まれながらの グリーンケミストリー

グリーンケミストリー（グリーン・サステナブル ケミストリー）とは、生物や環境への負荷低減をめざし、持続可能な社会の実現に貢献する化学技術のことです。ハリマ化成グループは、太陽光と水という自然の恵みを受けて、次代へと再生される松由来の物質を原料とするパインケミカルなりわいを生業としており、生まれも育ちもグリーンな企業です。さらに「自然に負荷をかけない生産システム」「自然環境にやさしい製品」を通じて、より“グリーン”に磨きをかけていきます。



“人と自然、テクノロジーの調和”を大切に、環境保全に配慮しています

ハリマ化成グループは1958年に国内で初めてトル油精留事業に参入し、1973年には人と地球にやさしい世界初の完全クローズドシステムのトル油精留プラントを建設しました。また、2000年に主力工場である加古川製造所で環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得して以来、全工場での省エネルギーの推進、廃棄物の削減、環境配慮商品の開発を進め、環境保全活動に努めています。

環境への取り組みもハリマ化成グループの使命です

製品の原料となる粗トル油は、植物由来の「バイオマス資源」です。この粗トル油からロジンや脂肪酸を精留する工程で得られる副生物をバイオマス燃料として利用しています。ボイラーによる蒸気製造への利用に加え、2005年3月には、加古川製造所にバイオマス発電設備を設置し、当製造所で必要な蒸気と電力のすべてを賄う能力があり、余剰電力はグリーン電力として電力会社に供給しています。



トル油ギャラリー

加古川製造所内にある見学施設「トル油ギャラリー」では、松から得られる化学物質の種類や用途、精留の仕組み等を、実物や模型、映像を使って紹介しています。

未来を拓く研究開発、 新たな価値の創造へ

私たちの研究開発は、長期的な視野を持って未来を拓く新しい製品価値の創造に挑む姿勢と、開発戦略に沿って得られた研究成果や技術をスピーディーに市場価値に変えることを大切にしています。刻々と変化する市場のニーズに対応するとともに、未来を見据えた、新たな領域での研究開発を推し進めています。



人材の育成と活性化で 新しいテクノロジーを生み出す

優れた人材の育成と組織の活性化を図ることで、オリジナリティに富んだ研究風土を育てています。さまざまな研修制度や海外派遣・留学制度によって、国内、海外の諸機関とも積極的に交流を図り、また、優秀な研究への表彰制度を設けるなどして、研究開発への意欲を高めています。さらに、異業種や産官学との交流を深め、新技術創造のための優れた研究者の育成にも力を注いでいます。

未来を見据えた 研究開発に注力

先進技術の研究に積極的に取り組み、省資源、省エネルギー、自然環境との調和を目指した素材を開発しています。研究成果は、国内外で多くの特許を取得するなど高い評価を得ながら、多彩な製品群となって実を結んでいます。日本国内での研究開発の基幹となる中央研究所、筑波研究所では、最新の研究設備や分析機器が充実しており、5年先、10年先を見据えて、現在の基盤事業の領域にとらわれない研究開発を行っています。さらに研究開発の合理化とスピードアップを図るべくマテリアルズインフォマティクスの利用を促進する体制を整えました。また、2011年に当社グループに加わったローター社の米国、ベルギー、オランダをはじめとする世界各国の研究所とも連携し、刻々と変化する世界市場とニーズを的確に捉えたグローバルな研究開発に力を注いでいます。独自の技術力とたゆまぬ探求心、情熱は、人々の暮らしを豊かにする原動力となっています。

樹脂・化成品事業

くらしの中の「美しい」と「安心」に貢献

樹脂・化成品事業では、印刷インキや塗料、接着剤、合成ゴムなどに求められるさまざまな機能と性能を実現するために、豊富な技術と経験を活かした各種製品を取り揃えています。主力製品である印刷インキ用樹脂、粘接着剤用樹脂、合成ゴム用乳化剤は、2011年にローター社がハリマ化成グループに加わったことで、よりグローバルな供給体制が整いました。これらの製品が使用されている分野でのリーディングカンパニーとして、世界中の人々のくらしに「美しい」と「安心」を提供しています。

〔事業・製品〕 くらしのあらゆるところに、私たちの技術が活かされています

印刷インキ用樹脂 | 塗料用樹脂 | 粘接着剤用樹脂 | 合成ゴム用乳化剤

印刷インキ用樹脂

印刷インキは、色を表現するための顔料を均質に分散させ、かつ紙などの媒体に顔料をしっかりと接着させるための合成樹脂や、インキの流動性をコントロールするための溶剤などからつくられています。ロジンは、顔料を均一に分散する機能に優れており、私たちはこのロジンと接着性に優れたフェノール樹脂を独自の合成技術で組み合わせた「ロジン変性フェノール樹脂」の商品を開発。この合成樹脂は全世界のインキメーカーに供給されており、印刷インキ用樹脂では世界トップシェアを誇っています。私たちは、ロジン変性技術を活用することで、環境にやさしく安全で、印刷物を美しく仕上げ、なおかつ印刷のスピードアップとローコスト化を実現しました。



塗料用樹脂

塗料は自動車や工業製品、住宅をはじめとする建造物から日用品に至るまで、さまざまなものをさびや劣化から保護し、美観を整えるために使われています。私たちは金属、プラスチック、コンクリートなどに直接塗装する下塗り塗料、塗り重ねが必要な中塗り塗料、耐候性と美観が重要な上塗り塗料まで、それぞれの塗料に最適な塗料用樹脂をカスタマイズし、ニーズに応じた製品を提案しています。近年では、塗装環境の改善を目的にVOC(揮発性有機化合物)を低減させたハイソリッド型塗料用樹脂やVOCを含まない水系塗料用樹脂などの開発も積極的に進めています。



粘接着剤用樹脂

接着剤や粘着テープの接着力を高めるために、ロジン誘導体を添加するという使用方法があり、その種類や添加量により、接着剤や粘着剤にさまざまな特性を付与することが可能になります。このように使用されるロジン誘導体は、タッキファイヤー(粘着付与剤樹脂)と呼ばれ、私たちは、多種多様のロジン系タッキファイヤーを取り揃え、世界中のユーザーの要望に応じています。



合成ゴム用乳化剤

合成ゴムの製造法に乳化重合法があります。乳化とは水に溶けない物質を水中に分散させる方法で、ロジンは乳化に適した化学構造を持っており乳化剤として利用されています。自動車タイヤには、主にSBR(スチレン・ブタジエンゴム)という合成ゴムが使用されており、ロジン系合成ゴム用乳化剤がタイヤの高性能化に貢献しています。燃えにくいなど天然ゴムや他の合成ゴムに無い特徴を持つCR(クロロプレンゴム)の製造にもロジン系合成ゴム用乳化剤は欠かせません。電線ケーブル、自動車部品、伝動ベルト、接着剤などに用いられています。



ローター社(LAWTER)について

速乾性印刷インキの開発者であるDaniel J.Terraは、自身の名前と資金援助した友人J. Lawsonの名前(LawsonとTerra)から、社名をLawter Chemicalsとして1940年にシカゴで創業しました。その後、同社はLawter Internationalとして米国やヨーロッパを中心に事業展開を進め、印刷インキ用樹脂の業界で世界のブランドとしての地位を確立するまでとなりました。1999年イーストマンケミカル社に、さらに2004年にはモメンティブ社(旧ヘキシオン社)に買収され、ローターの名前は社名から消えていましたが、2011年1月、ハリマ化成グループがこの事業を買収したことで、名門ブランドのローターを復活させ、ローター社(LAWTER)としてグローバルに展開しています。

製紙用薬品事業

なくてはならない「紙」の品質向上に貢献

普段、何気なく使っている紙には、私たちの製品が広く使用されています。製紙用薬品事業では、水性インクのにじみを防止するサイズ剤や、紙の強度を高める紙力増強剤、紙の表面を改質する塗工剤などの薬品を提供するとともに、新たな薬品の開発にも力を入れています。例えば、紙のリサイクルの際に発生する廃棄物を減らし、リサイクル率を高める薬品の開発などにも積極的に取り組んでいます。



〔事業・製品〕 暮らしのあらゆるところに、私たちの技術が活かされています

サイズ剤 | 紙力増強剤 | 塗工剤・バリアコート剤 | 工程改善薬剤・ピッチコントロール剤

サイズ剤

サイズ剤とは、紙の吸水性を制御して水性インクのにじみを防止する薬品のことで、その効果により、紙に高い筆記性や印刷性を付与することができます。ロジンは、高い撥水性を有していますが、私たちはさらに独自の技術でロジンに各種加工を施し、紙の多種多様な製造条件に合わせた最適なサイズ剤を提供しています。ロジン系サイズ剤は、一般的に内添サイズ剤と呼ばれており、抄紙工程でパルプと水との混合物に添加されて使用されます。私たちは、この内添ロジン系サイズ剤に加え、抄紙後の紙の表面に塗布して使用される表面サイズ剤の開発、製造販売も行っています。



紙力増強剤

段ボールの素材となる板紙や新聞紙などには古紙が積極的に利用されていますが、古紙の含有率が高くなることで紙の強度は低下してきます。これらの紙に強度を持たせる役割を果たすのが紙力増強剤です。私たちが長年培ってきた水系重合技術は、高機能な紙力増強剤の開発に応用され、板紙や新聞紙の強度向上に役立っています。抄紙工程で使用される内添紙力増強剤と、抄紙後の紙の表面に塗布して使用される表面紙力増強剤があり、それぞれの使用方法に合わせたさまざまな薬品を取り揃えています。



塗工剤・バリアコート剤

塗工剤は、出来上がった紙の表面に塗る薬品で、紙の強度を向上させる薬品や防滑性や撥水性、耐水性を付与する薬剤など、さまざまな用途に向けた薬品をラインナップしています。また、バリアコート剤は、プラスチックフィルムを用いたラミネート紙の代替を目的とした紙素材用の水系塗工剤です。プラスチックごみ問題の解決、脱プラスチックの観点からリサイクル可能な紙素材の提供に貢献できる薬品です。



工程改善薬剤・ピッチコントロール剤

DIP用歩留まり向上剤は、古紙を溶かして再生紙の材料を作る段階で添加することにより、古紙再生時の廃棄物の量を抑制する填料歩留り向上剤であり、古紙のリサイクルに貢献する薬品です。ピッチコントロール剤は、製紙工程で発生するピッチ(木材パルプ中の樹脂や古紙から混入する合成樹脂が凝集したもの)の原因となる樹脂を微細な状態で安定化し、操作性改善に繋がる工程改善に寄与する薬品です。

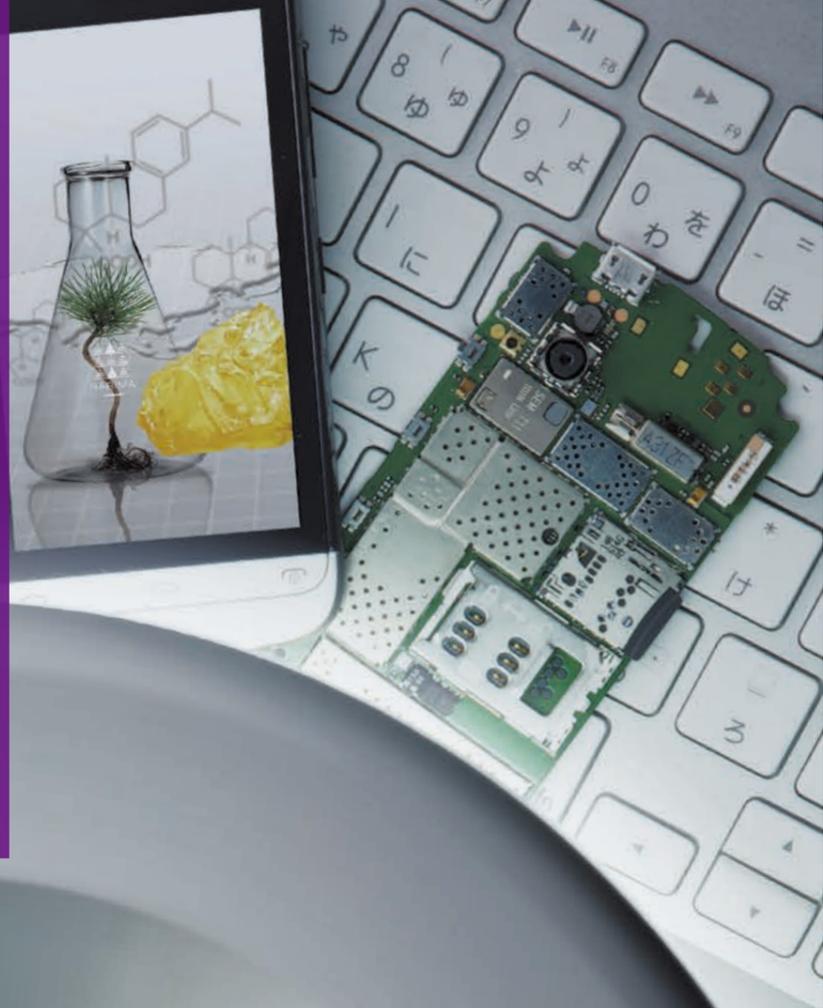


電子材料事業

電子機器の「進化」と「安全」に貢献

電子材料事業では、小型化・高性能化が進む電子機器において、基板と部品の接合に使われるはんだや、電子回路の形成工程に使用される導電性ペーストなどの開発、製造販売をおこなっています。

私たちは『クリーン(環境)&ファイン(小型・高性能化)』をコンセプトに、お客様への価値提案を実践しています。電子機器の小型化のための微細はんだ接合技術を低コストで実現する工法や、私たちが開発した複数の機能を兼ね備えた材料によって電子機器の製造工程を短縮するなど、先進技術を駆使して画期的な製品を提案しています。

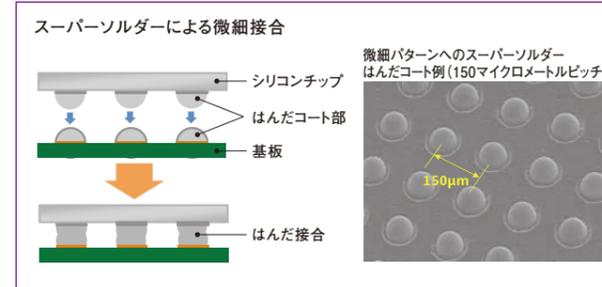


〔事業・製品〕 暮らしのあらゆるところに、私たちの技術が活かされています

はんだ付け材料 | プリント配線基板関連材料 | 熱交換器用ろう付け材料

はんだ付け材料

電子機器の製造工程で、基板と電子部品を接合するための材料が「はんだ」で、私たちは、ロジンを持つ性質のひとつである金属酸化物に対する還元作用を応用し、金属粉とロジン誘導体を組み合わせた、ペースト状のはんだ「溶ダペースト」を開発しました。また、環境への配慮も重要な使命であると認識し、酸性雨の影響によって廃電子機器から鉛が流出することを防ぐ、鉛を使用しない「鉛フリー溶ダペースト」の開発にも早くから着手しました。私たちが開発した鉛フリー溶ダペーストは、1998年に世界で初めて鉛フリー化を実現したMDプレーヤーに採用されて以来、数多くの実績を積み重ねてきました。現在、用途に合わせ多様な製品を取り揃えています。

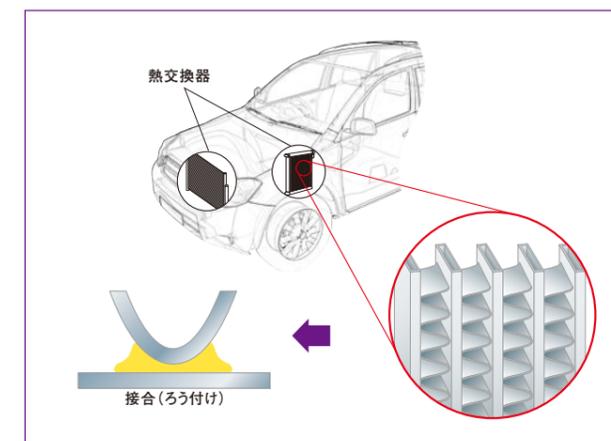
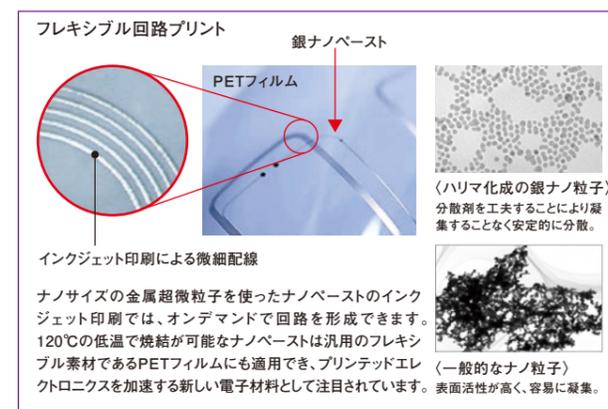


プリント配線基板関連材料

導電性ペーストは、電気が流せる便利な接着剤です。ハリマ化成の導電性ペーストは、熱を伝えやすい性質をもち、さまざまな印刷方式にも対応し、電子機器の部品の高密度化を可能にします。その高い信頼性により、太陽電池の配線やスマートフォンの部品接合など、次代を担う電子機器の生産には欠かせない材料となっています。また、10億分の1メートル単位というナノサイズの金属粒子を安定分散させたインク状の導電性ペースト「ナノペースト®」は、塗布して加熱するだけで高信頼性の金属薄膜を形成できるため、接合材料、配線材料として幅広い利用が可能です。インクジェットを含むさまざまな印刷方式が使えることから、印刷による新しいモノづくり技術「プリンテッドエレクトロニクス」の基幹材料としても期待されています。

熱交換器用ろう付け材料

アルミニウムの接合技術である「ろう付け」にも、私たちの技術は応用されています。各種アルミニウム製品の製造工程に使用され、品質の向上と低コストのモノづくりに貢献しています。例えば、自動車エンジンの冷却や車内の空調に不可欠な熱交換器は、軽量化を図るために、さまざまな形状のアルミニウム部品同士をろう付けで接合することにより製造されています。従来は、ろう付けに必要な材料を熱交換器の全面に吹き付けてから加熱し製造していましたが、私たちが開発した特殊な塗料状の「熱交換器用アルミニウムろう付け材料」は、ろう付けに必要なところだけに最小限の材料を供給することを可能にし、大幅なコストダウンと品質向上を実現しました。



Czech Rep. UK



Harimatec Czech, s.r.o.



HARIMA UK LTD.

Belgium



LAWTER カロ

The Netherlands



LAWTER マーストリヒト

China



哈利瑪化成管理(上海)有限公司
LAWTER 上海



杭州哈利瑪電材技術有限公司



杭州杭化哈利瑪化工有限公司



東莞市杭化哈利瑪造紙化學品有限公司



山東杭化哈利瑪化工有限公司



LAWTER 南平



LAWTER 封開



LAWTER 南寧

Taiwan



日商哈利瑪化成股份有限公司

India



LAWTER インド



Japan



東京本社

大阪本社

加古川製造所/中央研究所



仙台工場/営業所

茨城工場

東京工場

富士工場/営業所

四国工場

筑波研究所

ハリマエムアイディ株式会社

伊保基地(高砂伊保太陽光発電所)

ハリマ化成商事株式会社

株式会社日本フィラーメタルズ

株式会社セブンリバー

ハリマ食品株式会社

グローバル拠点

ヨーロッパ
(チェコ)
Harimatec Czech, s.r.o.
本社/工場
■電子材料

(英国)
HARIMA UK LTD.
本社/研究所

(ベルギー)
LAWTER カロ
研究所/工場
■樹脂・化成品

(オランダ)
LAWTER マーストリヒト
研究所/工場
■樹脂・化成品

アジア
(中国)
哈利瑪化成管理(上海)有限公司
Harima Chemicals (Shanghai) Co., Ltd.
本社
中国グループ会社に対する資金、
財務、経営等の管理・支援

杭州哈利瑪電材技術有限公司
Harimatec Hangzhou Co., Ltd.
本社/工場
■電子材料

杭州杭化哈利瑪化工有限公司
Hangzhou Hanghua Harima Chemicals Co., Ltd.
本社/工場
■樹脂・化成品
■製紙用薬品

東莞市杭化哈利瑪造紙化學品有限公司
Dongguan Hanghua Harima Paper Chemicals Co., Ltd.
本社/工場
■製紙用薬品

山東杭化哈利瑪化工有限公司
Shandong Hanghua Harima Chemicals Co., Ltd.
本社/工場
■製紙用薬品

LAWTER 上海
アジア統括/営業所
LAWTERアジアの統括、各種製品の販売

LAWTER 南平
工場
■樹脂・化成品

LAWTER 封開
工場
■樹脂・化成品

LAWTER 南寧
工場
■樹脂・化成品

(韓国)
LAWTER クンサン
工場
■樹脂・化成品

(マレーシア)
Harimatec Malaysia Sdn. Bhd.
本社/工場
■電子材料

(台湾)
日商哈利瑪化成股份有限公司
Harima Chemicals, Inc. Taipei Office
連絡事務所

(インド)
LAWTER インド
連絡事務所

オセアニア
(ニュージーランド)
LAWTER Mt.マウンガヌイ
工場
■樹脂・化成品

北米
(米国)
Harima USA, Inc.
本社
プラスミン社とハリマテック社の
米国持株会社

Harimatec Inc.
本社/工場
■電子材料

Plasmine Technology, Inc.
本社/ハイミネット工場
■製紙用薬品

LAWTER エルジン
本社/研究所

LAWTER バクスレー
工場
■樹脂・化成品

南米

(アルゼンチン)
LAWTER コンコルディア
研究所/工場
■樹脂・化成品

LAWTER プェノスアイレス
南米統括/営業所
LAWTER南米の統括、各種製品の販売

国内拠点

ハリマ化成株式会社

東京本社
〒103-0027 東京都中央区日本橋3-8-4
本社 TEL 03-5205-3080 FAX 03-3241-3035
営業 TEL 03-5205-3033 FAX 03-5205-3049

大阪本社
〒541-0042 大阪府中央区今橋4-4-7
本社 TEL 06-6201-2461 FAX 06-6227-1030
営業 TEL 06-6201-2464 FAX 06-6201-0391

加古川製造所/中央研究所
■樹脂・化成品 ■製紙用薬品 ■電子材料
TEL 079-422-3301 FAX 079-426-6008
加古川製造所
〒675-0019 兵庫県加古川市野口町水足671-4
TEL 079-422-3301 FAX 079-426-2650

筑波研究所
〒300-2635 茨城県つくば市東光台5-9-3
TEL 029-847-5080 FAX 029-847-5081

仙台工場/営業所
■製紙用薬品
〒989-2426 宮城県岩沼市末広1-2-1
TEL 0223-22-1201 FAX 0223-24-2790

茨城工場
■樹脂・化成品
〒300-0315 茨城県稲敷郡阿見町香澄の里13-1
TEL 029-889-2911 FAX 029-889-2880

東京工場
■樹脂・化成品
〒340-0003 埼玉県草加市稲荷6-18-1
TEL 048-931-4311 FAX 048-935-0664

富士工場/営業所
■製紙用薬品 ■樹脂・化成品
〒417-0847 静岡県富士市比奈311-9
TEL 0545-38-2254 FAX 0545-38-2151

四国工場
■製紙用薬品
〒799-0401 愛媛県四国中央市村松町365-1
TEL 0896-24-1001 FAX 0896-24-1003

ハリマエムアイディ株式会社

本社
〒541-0042 大阪府中央区今橋4-4-7
TEL 06-6201-2461 FAX 06-6227-1030

加古川工場
■樹脂・化成品
〒675-0019 兵庫県加古川市野口町水足671-4
TEL 079-424-2312 FAX 079-424-2118

U.S.A



Harima USA, Inc.



Plasmine Technology, Inc. 本社



LAWTER エルジン



Harimatec Inc.



Plasmine Technology, Inc. ハイミネット工場



LAWTER バクスレー

New Zealand



LAWTER Mt.マウンガヌイ

Argentina



LAWTER ブェノスアイレス



LAWTER コンコルディア

South America



LAWTER プェノスアイレス



拠点の最新情報は、こちらをご覧ください

(■●■ 取扱商品、事業内容)

■ 会社概要

社 名 ハリマ化成グループ株式会社
 創 立 1947年11月18日
 代 表 者 代表取締役社長 長谷川 吉弘
 東 京 本 社 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-8-4 TEL.03-5205-3080
 大 阪 本 社 〒541-0042 大阪市中央区今橋4-4-7 TEL.06-6201-2461
 資 本 金 100億円
 上 場 東京証券取引所(証券コード4410)
 主な事業内容 松から得られるロジン(松やに)、脂肪酸、テレピン油などを使って化学素材を製造・販売

■ 沿 革

2025年 2月 トール油蒸留パイロットプラントが、日本化学会により化学遺産に認定
 2024年 6月 Harima do Brasil Indústria Química Ltda.(ブラジル)の株式をブラジル従業員に譲渡
 4月 杭州杭化哈利瑪化工有限公司を完全子会社化
 2023年 4月 ミルセンプラントが完成(加古川製造所)
 3月 水足狩ヶ池太陽光発電所が竣工(兵庫県加古川市)
 1月 ハリマ食品株式会社を子会社化
 2022年 6月 独のHenkel社のはんだ材料事業を買収
 1月 HARIMA UK LTD.を設立(英国)
 2020年 3月 ローター社(LAWTER)へ高砂香料工業株式会社が資本参加
 2018年 12月 山東杭化哈利瑪化工有限公司が操業(中国)
 11月 スウェーデンのサンパイン社(SunPine)の株式を追加取得
 2016年 6月 スウェーデンのサンパイン社(SunPine)のトールロジン生産設備が本格稼働し、年間2万トンのトールロジン生産体制へ
 2015年 12月 ローター社(LAWTER)が出資したスウェーデンのサンパイン社(SunPine)のトールロジン生産設備の試運転を開始
 2014年 12月 高砂伊保太陽光発電所が竣工(兵庫県高砂市)
 11月 ナノ粒子工場が完成(加古川製造所)
 6月 ローター社(LAWTER)がスウェーデンにおけるトールロジン生産事業へ出資
 2012年 10月 ハリマ化成グループ株式会社(持株会社)に社名変更し、新たに設立したハリマ化成株式会社が事業を継承
 6月 哈利瑪化成管理(上海)有限公司を設立
 2011年 2月 東莞市杭化哈利瑪造紙化学品有限公司が操業(中国)
 1月 米国化学会社モメンティブ社(Momentive Specialty Chemicals)のロジン関連事業を取得し、ローター社として運営
 株式会社日本フィラーメタルズを子会社化
 2009年 10月 ジョージアパシフィックケミカル社(Georgia-Pacific Chemicals)のロジンサイズ剤事業を、
 2008年 12月 米国子会社 プラズミン・テクノロジー社(Plasmine Technology)が譲受け
 2007年 3月 南寧哈利瑪化工有限公司(現 LAWTER 南寧)が操業(中国)
 2月 Harimatec Czech, s.r.o.を設立(チェコ)
 2006年 6月 ISO14001取得(茨城工場)
 2005年 3月 トール油精留後の副生物を燃料としたバイオマス発電設備(出力4,000kW)が稼働(加古川製造所)
 2004年 6月 ISO14001取得(東京工場)
 2003年 12月 Harimatec Malaysia Sdn. Bhd.を設立
 杭州播磨電材技術有限公司(現 杭州哈利瑪電材技術有限公司)が操業(中国)
 9月 Harimatec Inc.を設立(米国)
 2002年 8月 電子材料製造設備が完成(加古川製造所)
 4月 ISO14001取得(富士工場)
 2000年 6月 ISO14001取得(加古川製造所)
 1999年 6月 ISO9001全社取得
 5月 杭州杭化播磨造紙化学品有限公司(現 杭州杭化哈利瑪化工有限公司)が操業(中国)
 1997年 11月 創立50周年
 1996年 4月 米国のプラズミン・テクノロジー社(Plasmine Technology)に100%出資、完全子会社化
 1990年 9月 東京証券取引所、大阪証券取引所市場第一部へ指定替え
 4月 ハリマ化成株式会社に社名変更
 3月 米国のプラズミン・テクノロジー社(Plasmine Technology)に資本参加
 1989年 3月 東京証券取引所市場第二部へ上場
 1985年 11月 大阪証券取引所市場第二部へ上場
 1983年 3月 松籟(しょうらい)科学技術振興財団を設立
 1980年 2月 Harima USA, Inc.を設立
 1974年 8月 Harima do Brasil Indústria Química Ltda.を設立(ブラジル)
 1973年 8月 世界初の完全クローズドシステムのトール油精留プラントが完成
 1972年 1月 播磨エムアイディ株式会社(現 ハリマエムアイディ株式会社)を設立
 1958年 10月 国内初のトール油精留プラントが完成
 1952年 1月 トール油の試験生産を開始
 1947年 11月 播磨化成工業株式会社として創業(現 兵庫県加古川市)



化学遺産に認定されたパイロットプラント(2012年に移設)



バイオマス発電設備(2005年)



現在のトール油精留プラント



国内最初のトール油精留プラント(1958年)



加古川工場内の蒸留機(1952年頃)

自然と人が奏でる美しく豊かな未来へ
 それが、私たちハリマ化成の願いです

ハリマ化成グループは植物資源「松」から得られる化学物質を、人々の生活や産業に役立つ製品にしてお届けしてまいりました。1947年の創業以来、常に新たな研究開発に挑み、独自のテクノロジーを活かした製品づくりを続けることで、パインケミカル業界のリーディングカンパニーとして高い評価をいただいています。そして、地球をひとつのフィールドと考えてグローバルネットワークを強化し、将来を見据えた幅広い事業展開を推し進めています。また、科学技術の発展を願って設立した松籟科学技術振興財団の活動を通して、科学技術の振興にも協力させていただいています。

「自然の恵みをくらしに活かす」これが私たちの企業理念です。

それは、「人と自然、そしてテクノロジーの調和」を願うものであり、豊かな社会の創造を追求するものです。

私たちはこの基本理念のもとで、グループ全体の能力を結集させ、

パインケミカル事業を通して、これからも人々のくらしに貢献してまいります。

代表取締役社長 長谷川 吉弘



公益財団法人 松籟科学技術振興財団

当社は、創業者である長谷川末吉が1982年に科学技術庁(現文部科学省)から『科学技術功労者賞』を受賞した栄誉を機に、科学技術の振興と世界文化の発展を願って、1983年3月、財団法人松籟科学技術振興財団を設立しました。以来、科学技術に関する調査・研究を対象に研究助成金を贈呈しています。

松籟(しょうらい)=松の梢に吹く風。また、その音。

研究助成受領者には、ノーベル化学賞受賞者が2名いらっしゃいます

- ◇野依良治氏 第4回(1986年度)研究助成 2001年ノーベル化学賞受賞
- ◇鈴木 章氏 第9回(1991年度)研究助成 2010年ノーベル化学賞受賞